

1面からのつづき

香川県支部

平成三十年度特別善行表彰伝達式・総会並びに懇親会を開催

平成三十年六月二十四日(日)宇多津町ホテルアネシス瀬戸大橋において、平成三十年度特別善行表彰伝達式、平成三十年度総会・懇親会を開催した。

特別善行表彰伝達式では、西村一夫秀天支部長から受賞者、副支部長の九野忠義氏と理事の宮本隆義氏に表彰状と銀章が伝達された。続いて、来賓の綾宏坂出市長、顧問有福哲二様からは、受賞者への活動の賞賛と激励の祝辞があり、受賞者を代表し宮本隆義氏から謝辞があった。



総会では、平成二十九年度の事業報告、収支決算報告、監査報告として、平成三十年度の事業計画(案)、予算(案)、一部規約改正と理事が各地で拡大し、地域に善行者・推薦者の掘り起しをするため増員。役員改選が提案どおり承認された。

大分県大分支部

平成三十年度春季善行表彰伝達式並びに総会の開催

春季善行表彰伝達式並びに総会を、六月十八日(月)大分市教育センターにおいて開催しました。本年度は特別表彰銀章受賞者二名の方、銅章は個人五名、団体(学校)四校でした。この日は月曜日という日もあって、学校長のご出席をいただきました。賞状伝達後、松井猛支部長の祝辞、来賓の祝辞、最後に出席の先生方にご感想を述べていただきました。最後に受賞者を中心に全員による記念写真で伝達式を閉会



しました。引き続き「平成三十年度の総会」を開きました。議長は規約により松井支部長が務めました。本年度は規約の一部改正と人事案が提案されました。本支部は年々会員も増えていきます。それに対応する為には組織改革による役員の増員、もって会員相互の連携強化が目的です。また、本年度から調査委員による選考委員会の設置等を提案し全案の承認は全会一致で承認されました。

佐賀県唐津支部

支部清掃活動の実施

八月六日早朝より唐津支部においては、会員の意識向上並びに奉仕活動を通して絆を深めるため、また、地域において唐津支部の存在を高め貢献するために清掃作業を実施しました。



群馬県北毛支部

チャリティゴルフコンペの開催ゴルフコンペへ収益金を児童養護施設等へ寄付

群馬県北毛支部は、発足以来恒例となつた「第十八回群馬県北毛支部チャリティゴルフコンペ」を、去る七月十六日(月)海の日、榛名山麓の「伊香保国際カンツリークラブ」において、会員相互の融和、親睦と県民への善行会活動の啓蒙を目的として、日頃から支部活動に賛同いただく344名という多くの参加者のもと、盛大に開催されました。

終了後、成績発表と表彰式に併せ、参加者から寄せられたチャリティ金の贈呈式を行いました。島村支部長からチャリティー収益金の一部を、児童養護施設「子持山学園」、高山村社会福祉協議会、榛東村社会福祉協議会へそれぞれ寄付し、さらに地方紙(上毛

ふる里自慢

愛知県支部

徳川家康始祖の地 松平郷

豊田市はご存知のトヨタ自動車の町です。見所として松平郷・紅葉で名高い香嵐溪があります。江戸幕府を開いた初代将軍徳川家康の祖先はここ松平郷より勢力を拡大していききました。家康から数えて八代前、初代親氏は徳阿弥と名乗り、時宗の僧として諸国を行



松平親氏座像



親氏公銅像

脚し、松平郷へやって来たと伝えられ、当時この地は在原信盛・信重親子が治めていました。徳阿弥は還俗し信重の末娘の婿となり家を継ぎ、徳川の始祖松平太郎左衛門親氏の出現です。近隣の村々を支配下に治めていき、二代目泰親は親氏の弟で親氏亡き後、甥の信玄・信光を助けて松平氏の勢力拡大に尽くし岩津城を攻め落とし信光は岩津城を本拠地として更に岡崎城・安祥城をも手中に治め、西三河の半ばを治める事に成功。この時より信光の系統は松平宗家として代々引き継ぎ家康に至っています。家康二十五歳の時、従五位下



産湯の井戸

三河守の叙任、任官を受け松平家康から徳川家康に改姓しました。兄信広は松平郷に留まって松平太郎左衛門家を継ぎました。松平郷の東照宮・高月院・松平城・大給城の四か所を一括して松平史跡として国の指定を受けられています。松平郷の見所の一つ、松平東照宮の現存する水壕や石垣は太郎左衛門家九代尚栄によって、関ヶ原の合戦の後築られました。以前奥宮に有った若宮八幡宮をこの地に移したものです。元和五年家康を合祀し、その後親氏も合祀して現在八幡神社松平東照宮と



高月院山門

兵庫県支部

平成三十年度支部総会及びブロック別総会並びに春季善行表彰伝達式の開催

今年、異常な猛暑日が続く中、本年度の兵庫県支部総会が平成三十年七月二十一日(土)、神戸市東灘区の「桜宴」で盛大に開催されました。久保事務局長の総会開会宣言、当日は来賓と



して清水玲子兵庫県青少年補導委員の会長の臨席を賜り、会員六十名余の出席(他委任)が続き、本年度は出席会員も六十名余の人数を得ての初めての大会となりました。全議案が承認されました。



兵庫県立播磨農業高等学校 善行表彰伝達式

善行川柳

選者 東 逸平

○それは駄目 首振り論すや チューリップ 北海道 齊藤 勉
評/「首振り論す」とするか、《首振り論すや》とするか、字余りになるので意見が分かれるところ。
評者は原句の通り《論すや》が抽象的な情景で良いかもね。

○花は散る 新し衣裳 身をまとう 静岡県 真野 和代
評/《花は散る》と言いつつ切ったところが良いですね。
《身にまとう》としないところが作者の熟達した表現力を思わせます。

○久しぶり 第一声は 元気かい 香川県 丸野 忠義
評/その通りですね。平易な出来事をすぐに川柳に変える事のできる作者は、作句を楽しみながら創っているのですね。

○若きらの 募金が広く 善意の輪 大分県 佐藤 満洋
評/《募金が広く》は、《募金広がる》としましょう。
着目点はとても良いですよ。

訃報



去る八月初旬、東京都粕江支部長佐藤全弘氏(八十九歳)が逝去されました。粕江支部は昭和五十二年に創設され、佐藤氏は初代松本善六支部長、二代目佐野耕作支部長の元で、会員増強と支部活動に尽力、平成二十年に粕江支部長に就任、同二十五年からは本年六月まで本部長として本会の発展に多大の貢献をされました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。